

190805 名古屋城石垣部会午後

13 : 12

堀田：再開する

松雄局長来た

マスコミ頭取り

松雄局長：午前中から来たかった

トリエンナーレ等あって午後から

石垣部会と名古屋城 なかなか話ができなかった

準備不足があった

やるべきことは調整して

石垣保全と市民の期待 議会からも要望

堀田：進行を座長に

北垣：変則的だが再開

最後は修復勾配まで

資料8

名古屋城：資料8 27ページ

熊本城フローチャートを参考にした

石材分類、評価区分

元の部位に戻すのが基本

補修すべき石材を検討

北垣：再使用の考え方

現位置での使用、再利用

ご意見を

宮武：前回前々回の議論

熊本城使われた

一つ違っているのは、ひび 痛み石材 使用に耐えられない

向きを変える

詰め石をするしないは問題にならない 詰め石は使う

その場所で使う

割れたり支障 その場所でなるべく使うのは正しいと思う

どっちにすればよいのだろうにしないように

28ページ 逆さ石をどうするか 議論の余地がない

何を不安になっているのか？

逆さ石について議論したいことはあるのか

名古屋城：石については元々ある状態

押さえたい

石自体は元の位置に戻す

不安定になるかどうか それに対して対応が必要であれば検討

宮武：原則 ぶれぶれだと石工が困る

悪くても割らない 真性性 栗石を配置する

形状が悪い 判定からはずすべき

和田：突き石 ところどころで逆さ石があることはある

周りの石で補うことはある

根石のところでは逆さ石は検討

宮武：原則はそのまま

根石はプロの議論 どうするか

北垣：宮武委員に聞きたいが、逆さ石の定義はどうなっている

宮武：北垣先生から教えて頂いたが、

上の石を支える 逆送 当たり所がない

なぜか不安定な面をおいてある

やりにくいのははっきりしている

やりやすいように変えたら、元々の姿から変わる

服部：不安定性はどうするか

宮武：周囲でやる

和田：逆さ石が原因で変状があれば問題

そんなことはない

逆さ石の根石については要検討

宮武：いまはフローチャート 逆さ石の取り扱いはそのう

前から押さえるとか、付加的な工法はあるはず

材料がないからそこまでいかないだろう

現地でどうやって押さえるかは別途やる

北垣：ほかには

千田：本来の石を本来の位置で作る

痛んでいる石も補修する

積んでいく過程で、都合が悪いからと言って削るのは本末転倒

そういった石を加工していかないのが原則

北垣：ほかには

いちおうこれで、検討して頂く

名古屋城：資料9 補修の方針

エポキシ樹脂で

亀裂の補修 ステンレス製のアンカーピン

北垣：いろいろな化学薬品を含めた石材補修意見を

宮武：基本的考えはこれでよいと思う

長く本物を使っていくか

破碎の状況 段階的な表

熊本でもそう 立面でひびの状況 7種類 パターン色塗り

静止している状態 だぼピン

隣の支えになっているやつ

2次元的なものはこれでいい

柔軟に組み替えることを

パターン7 耐久性の問題

名古屋城内石垣補修のひな形になる

天守台 焼きただれて表面がはがれる

熊本城、二条城 人の歩く頭の上

同じ危険因子として
透明樹脂 固定化するという
表明安定で塗布する 意見は出していきたい

千田：宮武先生からお話いただいた
7パターン 名古屋城石垣のひな形
熱劣化も加えてほしい 基準としてはきれいだと思う

北垣：和田頭領、なにかあれば

和田：結構な数補修しないと行けない
何年かすればはがれるだろうな 土の中
ひびはいついけば石に水がはいつてはがれる
割れ目に水がはいりにくくする
どれだけするか

千田：再補修の判定をする
これくらい程度ならやらないとか

宮武：どれくらいあるのか

和田：4割5割

宮武：保管されている状況の再管理は把握しているか

名古屋城：全石で本年度やる予定

宮武：カードには入っているのか

名古屋城：入っていない

宮武：なんこあるのか

名古屋城：4000石

宮武：それやらないと進まない

千田：保管 空堀底に石が置いてある

かけてあるシートがぼろぼろ 特別史跡にあるまじき状態
今日議論している 補修しても直そうとする貴重なもの
来場者も首をかしげている

北垣：赤羽先生なにかありますか？ない

次は資料10

名古屋城：30ページ資料10

孕みだし工学的管理

結果として、安定解析結果 赤円弧の面 形成された
栗石の内部ですべり面が形成されている

背面土 栗石で対策が必要

その都度円弧滑り解析をする

北垣：資料10は安全性を高める 向かって右手の上

栗石面のすべり面

現場からの声

頭領どうですか

文石協でも研修やっていた

和田：すべり面は水の流れる面

よけいに滑りやすくなって前に出たのではないか

栗石 そんなに違和感がなかった

撤去したときの感想

その何らかの方策は必要

宮武：さきほども和田頭領とはなした

服部所長「原因は？」

基盤事態が崩壊

慶長から天和 無理に積み替えた

原因は、塀から櫓から載っている 強引にした

逆さ石 掘削して石

枠工法 杭を打ってやった

青いれっせん なんの手だてもやっていない

境目の部分をやる
西形先生にみてもらった
解析の分析については、地盤工学の先生と議論したい
ピサの斜塔 地盤を押さえてこれ以上傾かないように
どういう解析結果になるか聞きたい
重い問題 熊本城
外面で押さえようという発想
事務局 内面で押さえる 鉄筋など
城郭の石垣は柔構造 離れたもの
熊本城震災 裏栗自体が下部沈下
巾着をすぼめるような形
金属製の網 受動的スタイル
文化財として技術的に当時なかった
昭和、近代は入れている
江戸時代について入れるかどうかは今後の議論
入れると決めたら、名古屋城石垣全部に影響が出る

北垣：安定解析結果 一つの面
それに関連して千田先生

千田：搦め手馬出 滑りがおこる可能性
名古屋城のその他石垣 どのように滑りがおこる可能性
搦め手馬出し石垣だけをどうするかだけではなく、
全体どうするか 議論しないと全体がちぐはぐになる
この部分の石垣をどうするかだけでなく、
石垣が天端で崩れる
早急に考えていかないと行けない石垣は相当ある
深刻に考えないと
手前側で押さえて
熊本城 鋼鉄製網で囲うのはしょうがないのか

北垣：次の資料の11

宮武：31ページ バックホウを使う
特別史跡でバックホウ使っちゃだめ ミス？

名古屋城：ミスです

押さえの石出てきたらはずす

宮武：記録保存ではない

国宝調査 怪しいものはさわっちゃだめ

切ったら回復できないからだめ

重機使って掘っちゃだめ

北垣：基本的にはトレンチをもうけて調査

あまりにも調査する必要はない

だいたい今のようなことで、そう大きくとりあがることはない

宮武：掘かたわかった

千田：現状変更申請でているのか

名古屋城：まだ

北垣：現場で確認を

あえてこれだけに特化した調査ことはしない

宮武：必要なデータはとらないといけない

興味で掘ってはいけない

裏栗厚み

栗の平均をどうするか

皆さん自体、何のために掘るか理解していないのでは？

北垣：発掘調査の予定位置図

宮武：来れも含めて検討してもらおう

千田：栗石はずしている

詰め方がどう 苦しい、難しい

北垣：根石 2について

和田：2あたりが孕みがひどかった

1は変形が少なかった

13：56

北垣：ついに天守台

村木：天守台石垣保存方針

考え方、調査について資料を出している

天守台石垣 保存方針 すべてが天守閣整備のためではない

今回そういった状況ではあるが、ブラッシュアップしたい

現状報告し議論できることは議論したい

33. 34. 35ページ

これまでやってきた石垣調査 図で示した

どんな調査をしたか

名古屋城としてここまで調査した

やっていないところはやる

やったところは報告

うち、外堀石垣のカルテ 内堀の外側成果をお示ししたい

簡単に説明したい

名古屋城：資料13 S17. 18 外堀石垣

33ページ 一番上のあたり

いまのところオルソ写真利用して状況を確認している

36ページ 間詰め石が剥落している

今後検討していきたい ほとんど見られない

S18でもほぼ同じ

S17 積み替えとか 修理工事経過はございません

江戸時代修復ライン 確認できない

S18 昭和になってから修復工事 はっきり修復ラインが確認できる

いまのところ搦め手馬出のような大きな変化はない

38ページ 天守台外側 剣堀外側 端台 石垣 U64

U65北側

U66 長大200メートル

U64 開かず門 新規積み直し 慶長の石垣が残っている

U64 かなり上部の方 明治以降に積み直し

U 6 5 かなり焼けている石材が残存している

明治の積み替え

上部の方 戦後積み替えたのでは

U 6 6 南側 何か所か新しい石垣が確認

堀内の方から発表がある 資料 5 5 ページ 明治濃尾地震

赤いのが崩落 黄色いのが孕む

技師が記録された

先ほどふれた明治修理 赤いところを中心に修理した

崩落しているところは直している

小天守側石垣 直している 黄色いところでも直している

孕んでいる、危ないところも修復している

北垣：具体的な変状 検討されている

ご意見を伺いたい

宮武：ここの現状変更申請を出している

議論をするのはどうとらえればよいか

村木：現天守の解体のため

カルテについては

宮武：どこまで審議していいのか

村木：出せるものは出した

調査は普段にやっていくもの

十分おはかりできていないものは審議頂きたい

北垣：継続しているカルテ 報告しますよ

宮武：カルテに特化しているのか

トレンチとの連携は切る？

村木：そう

宮武：確認した

報告 石垣部会に提示したものはどこか

穴蔵のレーダー探査

やっているのは結構だが、なにを報告したのか
出してもらわないとどうしようもない

村木：基本的には資料を出してきた

宮武：審議が終わっているものと終わっていないものを色分けして

目地 壊れる過程

複数の石工で見ないと

資料13番 35ページ

作業単位と思われる積み直しライン

一覧表の中の、43ページ ぶつ切りにしてほしいが

積み直しライン（作業単位 不連続面）

名古屋城：違うと思っている

出してきた中で、積み直しラインと受け止めた

単位 積み直しラインと変えた

宮武：痕跡も混じっている？

名古屋城：それもある

宮武：単位？

名古屋城：単位もご議論を

宮武：どういうイメージ

名古屋城：大名の丁場単位

同じ時期に積んではいるが、目地というか隙間がそろっている

宮武：45ページ 斜めのものは丁場の可能性がある

水平はありえない

35ページ 積み直しラインは水平ライン

目地 補修 かは一人でやってはまずい

かなり間違いがあるのでは

名古屋城：一人の目線を出したもの
一応これを例としてだした

宮武：複数の目で
一目瞭然おかしいのは、36, 37 左角シルエット
一つの角を同じくみてなぜ違う

名古屋城：写真の関係があり、写真の稜線

宮武：オルソでしょう？
一つの角をみて
資料化する かなりどうなのか

千田：今回は石垣カルテ作りが進んできている
分析 石垣カルテ 各石がどんな来歴か
健全度 優先度を判断する 両方の面があると思う
これからも石垣のそれぞれの来歴 どう読んでいくか
私どもも加えて、調査研究センター
およそいつ頃のものかが見えてくる
名古屋城自身を石垣から把握していく
崩壊が迫っていく石垣がないか 石垣カルテの目的
各地のお城でやられているレーダー探査
詳細な分析を進めていく 必要だ
第1段階 歴史を調べていく とは切り離して
順調に調査を進めて

北垣：石垣カルテは千田先生がまとめた
当初作ったときは、石垣カルテ 患者を診たときにどういう問診
作り出した言葉
いろいろな要素が修復工事 深まってくると要素が緻密になる
名古屋城 本質的価値 石垣部会 縄張り、石垣につきるかな
カルテ作りに精を出して頂きたい
充実したものにしてほしい
最初の方向性

宮武：今までの議論と分断されるから

場内の石垣カルテ

天守台だけいそげ

ようやく分断、中断 誰が何年やるのか

「肅々とはじめてください」ちょっと違う

尻切れとんぼになっている

優先的に人がいるところを

進め方としてそこまでさかのぼってやってほしい

千田：せっかくきれいにまとめたのに

名古屋城おつとめの方に、今の議論を真剣にとらえてほしい

考古学調査なしで現状変更申請を石垣部会の反対を押し切って出してしまった

橋がくつつく場所の石垣 「なにをもって影響が軽微」

基本のキができていない

「見方はどうですか？」全く答えることができない

本質的な構成要素 調査研究センターの内部でも共有されていない

やはりいかに厳しい状況なのか

自分たちの遣り方がよかったのか

今日の議論を聞いていると、そうではなかったとわかった

改めるところは改めて頂かないと。

名古屋城総合事務所は、大事な部分はそうならなかった

服部：後の方でいおうとしたが、

作業ライン 人によって 違うのでは？

何人かでやれば蓋然性がでるかも

宮武：ある程度わかるが、大幅に違う

100%正しくではなく、誰でも

服部：絶対安全とはいえない

宮武：石垣カルテの話

服部：健全ではないのに出したと千田先生がいった

千田：服部所長が言っていることは、議論していることは違う

標準レベルの調査をしてほしいといっている
石垣カルテができれば危険度が判明するとはっていない
オルソを作って、総合的に分析する
引き方が人によって違うというレベルではない
宮武先生 レベルの問題にふたをして、
決定はできないだろう、とは違う
そこをしっかりときいていただいて

北垣：できるだけ現状を客観的に観察する
そのために、石垣の手引きが文化庁から出されている
千田委員・宮武委員が言われている
正しい・正しくないではなく、基本的にこういうことを気をつけましょう
それをすれば使いやすくなるでしょう
そういう点 これから積み上げていくということ
カルテの話はこれにして、15 モニタリングの話

村木：カルテについては努力していく
現在天守台についてやっているモニタリングの話
反対側 図面示したとおり昨年度、今年度報告
座標をはかる
石垣にゲージを取り付ける
U61 ゲージは動きがない
パイプ方式 誤差が出る 石垣の動きをどう調査するか
10ミリ程度の誤差が出る
2点間の距離を測る
決まった方向での動きは把握していない
今は問題となる動きは把握していない

北垣：モニタリングについて

赤羽：47ページ資料15計測状況
2018年10月から8回

村木：おおむね2ヶ月に1回

赤羽：反射

村木：基本的には同じ時期

赤羽：誤差が出るのは当たり前

測定方法 数は少なくてもよいが、誤差が縮まるような
1年で変動がわかるような変動 とんでもないこと
固定的な安定的な方法を

村木：変わる方法を考えたい

モニタリング方法を考えたい

宮武：盛岡城 40年くらい継続している

前は百葉箱 真夏の炎天下 膨張できる
それを準拠してやっては

村木：ちょうど取り寄せているところ

精度が高まっている

宮武：それくらい長くやらないと意味がない

北垣：中長期的な視点でやらないと

村木：資料16 現状把握

14 ; 47

村木：資料16

レーダー調査

手順を確認

どういようにするか

瓦など

上下に分かれている

発掘調査が必要ななら攪乱の規模を調査

天守台 工学的な検討をして、悪い影響があるのなら土の改良

概ねわかるならしない

2019年8月からレーダー探査を始める
その後のスケジュールは決まっていない
まずこの調査は工事に伴う事前調査ではない
現状変更をして天守解体
天守の解体は議論中 あえて触れない
私どもとすれば必要な調査をして工学的な分析
手順が良いのか 手順があれば

北垣：ありがとう
内堀追加調査
事務所で考えていることと、追加があれば

宮武：現状変更を出しているので審議の対象外
工学的とは

村木：西垣、西田先生

宮武：いっしょに西垣先生と議論できる場を設定して

村木：設定を考えたい

宮武：レーダーの対象外の発掘調査
レーダー調査は現状変更許可はらないから広く

村木：すでに終わった 広くした

千田：レーダーの範囲は広いのか

村木：広く終わった

千田：基礎地行がなく、ただ石が置いてあるところがある 厳しい
石垣の脆弱性 その部分か全面的に広がっているのか
全面的に広がっていれば、かなり緊急の課題になる
U65 石垣にもある

北垣：他は

宮武：明治の段階で補修された箇所
新しい部分
トレンチの s、t、v、全部積み替えの真正面
三位一体で進めては
熊本城、弘前城
明治期大正期技術の低落
積み替えが崩落の原因
よくよく意見を交換して

北垣：重要なお指摘
資料 17

名古屋城：50 ページ
江戸時代資料 はらみ出し資料判断できない
明治以降東京都立中央図書館 濃尾震災以降のはらみだしの記載
戦前期どうなっているか
濃尾地震翌年の記載
太字 はらみ出し言及している
傾きが生じた
実地検分をしていた
検分時より破損が増した
55 ページの A3 資料
52 ページ 昭和戦前期まで
54 ページ わかること

北垣：文献から濃尾地震とはらみ出しの影響
課題がさらにいろいろな調査によって深まってくるのではないか
ご意見は

宮武：孕んだ時期がわかった
120 年経過した
問題になっている慶長の箇所だと思う
慶長以降の経年変化ではなさそう
震災直後ではなかったが、1 年くらいで増えている
特に北側石垣 突発的な内圧

考えられるのは内面の沈下
130年間持っているのは大丈夫？
目地から奥は栗石が見えなかった
太平洋戦争焼いた
モルタル入れた
健全ではないという印象を持つ

北垣；総合調査 文書の報告例 こういう問題が当たるのでは？

村木；堀内から説明した
2つ可能性がある
・濃尾震災
・慶長以来
現地観察 今孕んでいるところ 若干違うのでは
初見と違う どちらも捨てがたい
栗は全くないわけではない

宮武；ファイスコープ
失敗と指摘
経過の過程

村木；50センチ感覚で写真取っている
大きな空洞がないと理解

宮武；そのほうが天守作りやすい

服部；色が塗っていない

宮武；地震で飛び出たところだけ書いた可能性？

名古屋城；陸軍省の時代に似たようなもの
陸軍が書いたのか？

宮武；飛び出したものの代表のように書いてある
初見から1年くらい

名古屋城：天守閣がどの程度壊れたか調べた

宮武：地割れ

長手の破損

建物だけではなく、環境全体

名古屋城：把握していたのは事実

宮武：地割れの状況 見学で人が歩いている

損耗ダメージはある

村木：宮武先生 「その方が木造しやすい」と発言

調査は真面目にやっている

目的のために歪めているわけではない

服部；加藤清正 慶長地震を経験している

天守は上等なものを使っているのではないか

北垣：熊本では課題となっている石垣

本丸の石垣は慶長 算木積みが完成していない

持っているところは持っている

持っていないところもあるから問題

なかなか1つの理由だけで伝統技術を解明

服部：地震は議論できない

北垣：地割れと明確に残っているのは大問題

現場を見たらそう古いものではない

裏栗をどう手当するか

見せていただいた 新しい知見を得た

資料探しもよろしく

宮武：あらゆる名古屋城を守らないといけない

服部所長：村木さんは何もしなくていいのか

服部所長：

解体するのは避けたい
歴代悩んでいる
控えが長そうだから大したことはない
手当はしなくて良いのか

ま話、

服部；必要ならば

宮武：今の状態で

村木；必要であれば処置するというのはそのとおり
空洞がないから処置しないというわけではない

宮武：そう取られかねない

15；28

北垣：時間が15時半

村木：資料18

それとは切り離して天守台保存方針を作っていきたい

3月 部会で示してきた

石垣部会 不十分である

解消しようとしている

調査、欠けているところを進めたい

今の時点 内堀の追加調査、モニタリング、カルテ

保存、補修 どのような処置をするか

穴蔵石垣 改めて作り直したい しばらくした上で試掘調査

別途石垣部会にご相談させていただきたい

時期については書いていない

こういった調査が必要 どう分析 意識を共有したい

そこから右 解体許可が出た場合 天守台石垣の保存方針を具体化、策定

北垣：資料18について

宮武：穴蔵石垣について
天守台の保存方針

村木：現況を把握する

宮武：孕んで危ない
穴蔵石垣とどう関係あるのか

村木：全て調査したい

宮武：天守閣復元ありきとってしまう。
天守台安定と穴蔵とどう関係あるのか

村木；それも踏まえた上で穴蔵調査をしたい

赤羽；穴蔵について、石垣部会ではまったく論議していない
名古屋市
了解したと理解されたら心外

服部所長：天守はありき

赤羽；了承していない

宮武：天守ありきと切り離して

局長：木造をやりたいんです
石垣部会から指摘をクリアしながら
穴蔵をかかないと、まったく披瀝をせずにすすめていいか
きちんと書いてご審議いただきたい
穴蔵調査については、最終的にはやりたい
ここはご理解できないか

千田：そういう発言をされる前に、議事録を読んでから、所長も踏まえて。
文化庁にうその理由で発掘調査をするのは認められない
名古屋市の方針はわかるが、現状変更許可を取ってから、大いに議論をする

村木副所長の説明 典型的

この目的は天守のために穴蔵を復元するためです

言っではいけないことを言っちゃった

どういう議論を何年もかけてしてきたかを理解してほしい 建設的

天守台の保存方針だけをてててもだめで、内堀底とか対岸とかも

s17 どういう風に保存するか

一体とした保全方針を立てないとだめ

全体として 踏まえた保存方針を検討してほしい

村木：穴蔵復元は名古屋市方針

現況把握

天守閣整備事業とは関係しない

宮武：上の木造天守が支えられるかどうか

完璧な石垣

耐久性の

隠れ蓑もいいところ

驚きなんですね

ご存知でしたか？

ボーリングは承知

宮武；経緯は違う

文化庁にさきに認識を取ってもらってから

上の天守閣

服部：

ぼくは4月から来たからそう思っている

許可が

石垣部会 木造天守のために穴蔵調査をする

唯の一度も

議題に上がってこない

石垣 部会で関心がないからでは

転換するのは大問題

議事録をきちんと見てほしい

宮武：

現状変更申請を出した段階で

宮武；調査が足りない

データが中途半端

調査が目処が立った

石垣

服部所長：危険を煽りすぎている

宮武；調査自体が終わっていない

堀ぞこの調査

御深井丸

服部：処方箋を考えて

宮武：状況を教えてくれ

服部：軽量盛り土で埋めるから壊れるわけではない

千田：特別史跡なので、外部の有識者が議論してから現状変更申請をする

私たちは邪魔をしているわけではない

「危険を煽っている」耳を疑う

解体すると場合、学術的評価が

学問の一定な水準 なされていない

名古屋市としては安全と思っている 大見得を切られても、

「人柱になりたい」データを積み上げて

建設的な発言を望みたい

宮武：出してくれというものが出てこない
ようやく揃ってきて、議論がようやくできる
工学的判断で現状変更出しちゃった

局長；石垣部会に出て、しっかりやらなくちゃいけない
石垣カルテ レベルにもいたっていない
レベルに達するようにしたい
基本的スタンス
穴蔵 適切に保存するためには現天守閣を解体して調査したいという方針

北垣：過去において、天守閣、復元の天守閣云々のまえに、伝統技術の価値 縄張り
と石垣にある
新しい要因が入ると、前段階としての不安に思う要素は除いておかないといけない
それを継続してただやってきた
いいようにやってきた
突然「天端の部分触らせてくれ」審議していない
機会があれば審議。
かなりいいところまで調査、要望しようとしている
そこをきっちりやりましょうよ
次の話はそこからだ

服部；表を出して確認したかったのは、何を調査すればよいのか
今日の話でわかってきた
穴蔵については反対している

北垣；穴蔵を含めた天端の部分
まずはいまやっている調査をしてから

宮武：「穴蔵の調査が必要だ」「だから上の天守閣をどける必要がある」はやめてもら
いたい

服部所長；議事録をよまないと理解できないのは問題ではないか

宮武：今までの議論を聞けばわかる 総合事務所も領いている

北垣；「許可が出た場合」みたいないい加減な言葉は除く以外ない
さらにいっそう検討させていただく
穴蔵急に飛び出したこと 除外してほしい

北垣；その他があれば発言したい

堀田；その他

北垣；この会場にお集まりの方に伝えたい
これまでもそうだし、今後もそうだが、他の委員会関わることが多い
個々人としての発言はあっちこっちでやっている
対話が不正確な表現が多々ある
このようなことが感じられることがある
この石垣部会の報告 発言を含めて、議事録 今日ここで委員の発言 報告それが実は相違であります
それ以外で委員から出されるかもしれないが、この話が石垣部会の総意である
次回変わってくるかもしれない
総意と理解してほしい
いろいろあった
一言あった

佐治所長；不正確とは

北垣；逆の捉え方がされることがある
ここでいう話が正しい
みんなバラバラに分かれているが、相手からすれば

佐治所長；

服部所長；週刊誌とかか

北垣；

講演会、インタビュー 名古屋城について脈略

北垣：そういうこともありましょう
ここで話しされていることが意思

服部所長：聞きたいことはいっぱいある

北垣：言いたいことがいっぱいある

村木：まとめ

発掘調査

カルテ、石垣保全方針

天守台保存方針

カルテレベルに達していないところ

場内カルテ体制

今後の保存方針

穴蔵については書くのは不適切

これまでの調査を踏まえて行う

堀田：ありがとう

次回は追って日程調整

16 ; 10